授業科目名・形態	コミュニケーション技術Ⅰ　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	松本 和剛	実務経験の有無	無	開講期	1年前期
科目ナンバリング	W3-1014c				

【授業の主題】

対人援助においては、クライエントと信頼関係を築くこと、どのように相手の話を聴けるかが関係性に影響を与える。そのため、対人援助職は、専門知識や技術を身に付けても聴く態度を磨いていかなければ、利用者・家族・多職種と信頼関係を築き相手を理解していくことが難しい。本講では、利用者・家族との支援関係の構築やチームケアを実践するための意義、技法、聴く態度を学ぶ。そこから、クライエントの生活支援に必要なコミュニケーション能力・態度を身に付けること、さらにICTや生成AIなどを理解することを目的とする。

【到達目標】

1．クライエントの置かれている状況を理解し、信頼関係の構築や思いの表出を支援する観点から、介護実践におけるコミュニケーションの基本的な技術や態度に関して説明ができ、実践できる。
2．家族全体を支えながら介護行為に繋げていくためのコミュケーション技術の技法、態度について理解し、説明、実践できる。

【授業計画・内容】

第1回　オリエンテーション
第2回　介護におけるコミュニケーション
第3回　介護におけるコミュニケーションの対象
第4回　援助関係とコミュニケーション
第5回　利用者・家族とのコミュニケーション：傾聴
第6回　利用者・家族とのコミュニケーション：受容
第7回　利用者・家族とのコミュニケーション：共感
第8回　利用者・家族とのコミュニケーション：距離
第9回　利用者・家族とのコミュニケーション：相談・助言・指導の技法
第10回　言語コミュニケーション
第11回　非言語・準言語コミュニケーション
第12回　目的別のコミュニケーション技術
第13回　集団におけるコミュニケーション技術
第14回　コミュニケーション障害への対応の基本
第15回　ICTや生成AIとコミュニケーション

【授業実施方法】

講義を中心とし、講義内容により動画、ロールプレイ、演習を取り入れた内容とする。第5・6回目は課題を提示してペアワークを行う。

【事前・事後学習】

講義内容に関する事前学習を毎回2時間以上行うこと。授業前に該当箇所を読んで、分からないことを明確にしておくこと。また、学習を通じて自己のコミュニケーションに関する苦手なことを認識していくこと。講義内容を踏まえ、復習を毎回2時間以上行うこと。

【主な関連する科目】

コミュケーション技術Ⅱ、コミュケーション論、介護の基本Ⅰ～Ⅵ、介護過程Ⅰ～Ⅴ、人間の理解Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術論Ⅰ・Ⅱ、日常生活支援技術演習Ⅰ～Xなど

【教科書等】

最新　介護福祉士養成講座5　コミュケーション技術（第2版）、中央法規、2022.

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

授業態度・参加意欲等10%、小テスト・レポート10%、定期試験80%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の資格取得の目的だけでなく、日常の生活においてもコミュニケーションは重要です。また、介護福祉士の実習や社会福祉士の実習にもコミュニケーション能力が必要です。ロールプレイ・演習に積極的に参加し、分からないことを質問するなど主体的に講義に参加してください。